

令和3年度 府立丹後緑風高等学校（網野学舎） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 丹後緑風高校のコンセプト「夢と人・学舎・地域・世界を結び、ものごとの本質を究め、新たな価値を創りだす」人材を育成する。</p> <p>2 教育目標、教育方針（育成する力）、育てる生徒像を教育活動の中に明確に位置付け、その具現化を図る。</p> <p>3 生徒信条「青年は未来を信じ使命に生きる」の精神にのっとり、将来に対する夢や目標を持たせ希望進路の実現に向けて挑戦する姿勢を大切にする。</p> <p>4 地域の中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを推進する。</p>	<p>（成果）</p> <p>1 広報紙発行やホームページのタイムリーな更新によって、本校の特色・魅力を広く発信できた。</p> <p>2 ICT活用やアクティブ・ラーニングを取り入れた授業が増え、授業評価アンケートで主体的な学びが工夫されているによくあてはまると回答した生徒の割合が増加した。</p> <p>3 5分前登校が定着して、落ち着いた学習環境が維持できている。また、部活動加入率も高水準で維持できた。</p> <p>4 普通科の総合的な探究の時間では、「SIM京丹後」の取組を始めとする探究活動の充実を図ることができた。</p> <p>5 教職員の働き方改革では、退勤時間が全体的に早まるなど教職員の意識改革が進んだ。</p> <p>（課題）</p> <p>1 学舎制の推進に向けて、京丹後市地域コーディネーターの活用等、久美浜高校・久美浜学舎と一層緊密に連携を図る必要がある。</p> <p>2 地域の中学生から選ばれる魅力ある学校づくりと一層積極的な情報発信を行う必要がある。</p> <p>3 コロナ禍の中、体験的な進路学習の機会が少なく進路希望未定者が多くなっている。1・2年次から進路意識を高めるとともに、新しい大学入試に対応した実践力の養成が必要である。</p> <p>4 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら、実施が可能な方法を検討し、教育活動の充実を図る必要がある。</p>	<p>1 久美浜高校・久美浜学舎との緊密な連携を図り、遠隔授業の実施、京丹後市地域コーディネーターを活用した農商連携、合同部活動の実施等、学舎制による教育の推進を図る。</p> <p>2 産官学連携による地域創生教育を推進し、地域の将来を担う人材を育成する。</p> <p>3 オリンピック・パラリンピック教育推進校として、スポーツを通して共生社会を目指す教育を一層推進する。</p> <p>4 広報活動の充実を図り、本校の特色・魅力を発信し、積極的な生徒募集を進め、本校を第一志望とする生徒の増加を図る。</p> <p>5 ICT活用やアクティブ・ラーニングによる授業改善や総合的な探究の時間における探究活動の充実を図り、主体的に学ぶ生徒の育成を図る。</p> <p>6 学校行事・部活動・ボランティア活動等を通して主体的に考え、行動する生徒の育成を図る。</p> <p>7 いじめには組織的に対応し、予防や早期発見・解消に努める。また、情報モラル教育の徹底を図る。</p> <p>8 3年間を見通した系統的な進路指導により、進路意識の向上を図るとともに、希望進路実現のための基礎・基本の徹底と実践力の養成を図る。</p> <p>9 「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」を踏まえ、ステージに応じた教職員の資質能力の向上を図る。</p> <p>10 教職員の働き方改革を進めるために、教職員の意識改革と業務改善を一層推進する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
特色化事業	・広報活動の充実と生徒募集の拡大	・広報紙とホームページにより本校の教育活動の特色・魅力を広く発信する。 ・地元中学校への情報発信を強化する。 [ホームページの更新回数週5回、広報紙の発行回数年10回]	B	B	C	・HPで授業や部活動等の日常の教育活動もこまめに発信できた。スマホ表示に対応した新HPへの移行を行う必要がある。 ・広報誌は目標の回数を発行し、地元中学校へは全校生徒に配布した。 [HP更新週4.8回、広報誌10回]
	・地域創生の取組とオリンピック・パラリンピック教育の推進	・地域と連携した活動に主体的に取り組むとともに、地域の魅力や課題に気づき、その発信や課題解決に取り組む。 [TACの取組年間3回以上]	C	C		・普通科の総合探究や企画経営科の課題研究など全校で地域探究を題材にした学習をすすめることができた。 ・コロナ禍でTAC等の地域連携の取組はほとんどできなかった。感染防止を行いながら実施可能な内容を検討する必要がある。 [TACの取組1回]
		・パラリンピック種目をはじめとしたアダプテッドスポーツ等の理解を深め、障害の有無にかかわらず誰もが共に楽しめるポッチャを体験する。 [教員へのポッチャ研修の実施、生徒のポッチャ体験者の割合100%]	C			・LHR計画に位置付けて計画的に取組を進め、コロナ禍であるが2学年でポッチャ体験を実施できた。 [教員実施済み、生徒66%]
組織・運営	・学舎制の特徴を活かした教育活動の推進	・遠隔授業、合同部活動を円滑にすすめる。	B	B	B	・遠隔授業は、機器不具合等の細かい問題もあったが年間を通してスムーズに実施できた。問題発生時の素早い対応ができる体制をつくる必要がある。 ・合同部活動は概ね円滑に進めることができた。
		・久美浜高校・久美浜学舎と連携した取組を計画・実施する。 [学舎間連携の取組年間7回以上]	C			・コロナ禍で生徒間の農商連携は遠隔授業の試行など最小限しかできなかった。 ・行事計画等に係る学舎間での連絡・調整を一層緊密にする必要がある。 [学舎間連携の取組3回]
	・教職員の資質能力の向上	・本校の教育課題への対応と教職員のステージに応じた能力向上のための研修の充実を図る。 [センター研修の受講延べ数30回以上]	B	B		・校内研修実施・センター研習受講ともに概ね目標に近い回数実施できた。 ・オンライン研修に対応できる施設設備の整備の必要がある。 [センター研修受講延べ数27回]
	・教職員の意識改革と業務改善による働き方改革の推進	・業務改善アンケート等を実施し、業務の見直し効率化を進めるとともに、19時30分までの退勤を目標とする。 [19時30分退勤率90%以上]	B			・目標の設定値が高く達成できなかったが、退勤時間に対する教職員の意識は定着してきている。一層の業務改善に向けてアンケート等でのICT活用、完全下校時間変更等の検討が必要である。 [19時30分退勤率73.8%]

学 習 指 導	生徒の主体的な学びの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ・ラーニングを推進し、生徒の主体的な学びを深めさせる。 [授業評価アンケートでA・Lの視点を取り入れた主体的な学びが工夫されているによくあてはまると回答した生徒の割合75%] 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの教科・科目でAL型授業への対応を進めることができた。より質の高い学力育成に向けて、更に授業のレベルアップを図りたい。 [よくあてはまるの回答割合86%]
	効果的な授業に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の導入に向けて、ICT機器や遠隔教育システムの積極的な活用と研修を推進する。 [授業評価アンケートで授業内容を理解しやすいようにICT機器を利用し工夫していると回答した生徒の割合75%] 	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・教員用端末整備や教職員研修を実施した。授業でのICT機器の活用が広がっている。校内使用規定の整備や教員の活用スキル向上を図る必要がある。 [工夫しているの回答割合82%]
	新学習指導要領に対応した適切な評価方法の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の実施に向けて、適切な評価のあり方についての研修を実施する。 [評価に関する研修3回] 	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・研修の回数を十分に確保することができなかった。教務部を中心に評価方法の確立に向けて取り組んでいる。 [評価に関する研修2回]
生 徒 指 導	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や態度を調整できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての「あいさつ、身だしなみ、礼儀・マナー、5分前行動」等の指導を全教職員で行う。 ・自分の身は自分で守る、危険回避の行動がとれる力をつけさせる。情報モラルに関する講演会・交通安全の取組を実施する。 ・薬物乱用防止に向けた取組を強化する。 [遅刻・交通事故ゼロ] 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・5分前登校の予防的指導や、全教員で朝の立ち番などが、遅刻の少ない落ち着いた学習環境の維持に効果を上げている。 ・コロナ禍であったが実施形態を工夫して情報モラルや薬物乱用防止の講演会を実施できた。 [交通事故0件、遅刻11件]
	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体を調整できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率を維持しながら、体力や感性を育成する。 ・生徒会活動（専門委員会）の見直し。 [部活動加入率80%以上] 	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・途中退部者もあったが、部活動加入率は高い水準を維持している。 ・コロナ禍で生徒会・委員会活動に制限があったが、感染防止の取組を中心に効果的な活動ができた。 [部活動加入率86.9%]
	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係を調整できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを見逃さず、早期に対応するために、生徒の情報を教員で共有する。 ・地域貢献・キャリア教育につながるボランティアに積極的に参加させる。 [ボランティア活動の年間参加延べ人数1,000人以上] 	A	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒対象調査に加えて学校独自の教員アンケートを実施することで、早期発見と対応ができた。 ・コロナ禍でボランティア活動に取り組みにくい状況がある。ボランティア活動・地域貢献活動の在り方について、抜本的な部分から検討をする必要がある。 [年間参加延べ人数497人]

進路指導	主体的なキャリア意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者に対して大学入試改革等に関する情報を提供する。 ・進路選択、職業選択が主体的にイメージできるよう各種進路行事の実施と担任、チューター、進路指導部員等によるきめ細かな面談を実施する。 ・地元企業と連携しながら、地域を知り、地元での就職についても考えながら、職業意識を高める取組を実施する。 <p>[進路希望未定者数：1年生10人未満、2年生0人]</p>	C	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた進路行事と進路だより発行等により情報提供に取り組んだ。早期からの進路意識高揚に効果的な方法を更に検討する必要がある。 ・保護者対象講演会・説明会の参加者が少なかった。積極的な参加を呼びかけたい。 ・コロナ禍で地元企業と連携した取組が実施できなかった。 <p>[進路希望未定者数：1年生12人、2年生4人]</p>
	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・就職講習や模擬面接等、早期からの就職指導を充実させる。 ・授業、進学講習、小論文指導、面接指導等を組織的に行う。 <p>[就職内定率100%、最終進路希望調査の実現率90%]</p>	B	B		<ul style="list-style-type: none"> ・就職においては、丁寧に指導を行うことで高い内定率を維持することができた。 ・2学期後半から希望進路を変更するケースが複数あり、保護者も含めた面談を充実させる必要がある。 ・進学希望の実現に向けて、より早期からの指導を充実させる必要がある。 <p>[就職内定率92.3% (除未応募分) 進路希望調査実現率88.6% (3/9現在)]</p>
保健・安全 教育	・健やかな心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防について理解を深める。 ・外部機関と連携した講演会を実施する。 ・保健・美化委員会による新型コロナウイルス感染予防等の健康啓発活動に取り組む。 ・SCを活用した教育相談に積極的に取り組む。 <p>[講演会1回、保健委員会3回、教育相談・いじめ対策・特別支援教育会議毎月実施]</p>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日清掃活動で拭き掃除に取り組めた。 ・オンライン健康観察の定着ができたが、未入力者の対応が課題である。 ・教育相談・いじめ対策・特別支援の会議を毎月開催し、SCにも出席してもらい、情報共有と対応の検討を丁寧に行えた。 <p>[講演会1回、保健委員会取組毎日、教育相談・いじめ対策・特別支援会議10回]</p>
	・安全意識の向上と危機対応能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を実施する。 ・体育委員会・部活動部長会を中心にして、生徒の活動中の怪我予防の啓発に取り組む。 <p>[予告なし防災訓練1回、事故発生率10%以下]</p>	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練は1回の実施であったが、適切な行動がとれていた。防災委員の活動は毎日行えた。 ・怪我の発生率を10%以下に抑えることができた。 <p>[防災訓練1回、事故発生率6.6%]</p>
人権教育	・生徒の人権意識の高揚と人権問題の解決に向けた具体的な行動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・人権ホームルームでの学習や日々の様々な活動を通じ、今日の人権問題を正しく理解させる。 ・オリンピック・パラリンピック教育を通して、共生社会の重要性を正しく認識させる。 <p>[人権に関するホームルームを各学年2回以上実施]</p>	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年2回の人権学習を行い、人権問題について理解を深めることができた。 ・ポッチャ体験や人権学習を通して共生社会の重要性を学ぶことができた。 <p>[ホームルームを各2回実施]</p>
	・人権三法を踏まえた教職員の認識の深化と指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな差別解消法制定等の状況を踏まえた校内教職員研修を1回以上実施する。 <p>[研修実施回数1回以上]</p>	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による同和問題の研修を実施することで、教職員の人権意識を高めることができた。 <p>[教職員研修1回実施]</p>

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の厳しい状況の中であるが、頑張って指導してもらっている。 ・プレゼンテーション大会等の企画経営科の教育活動に長く関わっているが、着実にレベルが高くなっている。 ・挨拶の指導や5分前登校など、社会人として必要な指導を行ってもらっている。 ・合同部活動により、選択肢が増えたり、活気が出たりしているのは良い。 ・ICTの活用に熱心に取り組んでいる、情報リテラシーの教育も行っていたきたい。 ・コロナ禍で心に傷を負った生徒がいないか心配である。
----------------------------------	---

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底しながら、実施が可能な方法を検討し、生徒の学力向上と達成感を感じられるよう教育活動の充実を図る。 ・より効果的な広報手段の研究・導入をすすめ、本校教育に係る魅力発信や校内外への情報伝達の一層の充実を図る。 ・久美浜学舎と一層緊密な連携を図り、遠隔授業・合同部活動・農商連携を柱とした学舎制による教育を推進する。 ・業務改善アンケート等により、働き方に関する意識改革と業務改善の取組をさらに進める。 ・新学習指導要領や一人一台学習端末導入への対応を組織的に進め、生徒の学力向上と教員の資質能力の向上を図る。 ・総合的な探究の時間を中心に、生徒の課題発見・解決力や情報の収集・分析、発表・表現等の力を育成するために探究活動の充実を図る。 ・教育活動の様々な場面で言語活動・読書活動の充実を図る。 ・いじめについては、今後も組織的な対応を進め、予防や早期発見・早期解消に努める。また、情報モラル教育は、今後も継続して指導を行う。 ・地域の各種機関とも連携して地域貢献・地域創生活動を推進し、物事に主体的に取り組む姿勢と郷土愛の醸成に努める。 ・生徒のキャリア意識形成のための系統的な進路指導を充実させるとともに、希望進路実現に必要な実践力の育成に努める。
--------------------------------	--